

第 69 回 日本木材学会大会 学生優秀口頭発表賞

M14-09-1445 山口佳穂 (岐阜大応生)

① スライド作成で工夫した点

アニメーションを用いて、これから話すことがスライド上に現れるようにしました。1枚のスライドでも、初めて見る人には沢山の情報が載っていることになるため、発表者がどの部分を説明しているのか分かりやすくすることを心がけました。

② スピーチで工夫した点

スピーチでは自分が思っている以上に、大きな声で話す必要があると考えています。大きすぎるかもしれない、くらいの声で話す方が抑揚もつけやすくなるため、大事な部分を印象付けやすくなり、聞いてくださっている方の飽きを防ぎ、興味を惹くことができると考えます。そのため、大きな声でハキハキと話すことを意識しました。また、①の内容と関連して、アニメーションを使うことで、次に何を話すのか忘れることがなくなり、「話忘れ」を防ぎました。アニメーションは、聞く側の注意を惹くことができる点と自分が論理立てて話すための目印として活用し、工夫を怠らないようにしました。

③ 練習方法等

パワーポイントのノート機能を利用して、各スライドで話す原稿を全て書き出しました。この段階で文章としての繋がりが甘い点を排除し、報告書並みに「日本語」が正しいかをチェックしました。原稿が完成したら、アニメーションと原稿の相性を確認し修正を加えました。その後はパワーポイントの発表者ビューを使用しなくてもスラスラと言葉が出てくるように、さらにポインターをどこで使用するかをシミュレーションしながら毎日練習しました。